

第24回 CAOS 21の会 参加印象記



宮久保眼科 宮久保 純子

自己紹介

宮久保眼科 宮久保純子と申します。

3年前に亡くなった夫 宮久保寛が、長い間カオスの会でお世話になりありがとうございます。彼は毎年嬉々としてカオスの会に出かけていきました。どんなことをしてきたのか詳しいことを聞きませんでした。毎夏、確かに元気と知識と何かを得て帰ってきました。昨年、細川保社長にお声を掛けていただき、私もカオスの会に出席させていただきましたが、「その何とも言えない迫力、特別な時間」に、もう感動しました。また、皆様の温かさに、本当に心が癒されました。出席した私に手術の色々なノウハウから経営的な知恵も惜しみなく教えてくださいました。夫が亡くなり白内障手術で困っていた時も、カオスの会の先生にいろいろと助けていただきました。ありがとうございます。

今回はまだ2回目ですが、印象記をと細川保社長からのご依頼があり、僣越ながら記させていただきます。

7月31日（第1日目）：岡山南眼科（岡山県岡山市）井上康先生

初日は涙道内視鏡を用いた涙道手術のエキスパート井上康先生の手術見学に、岡山南眼科にお邪魔しました。

朝5時に自宅を出て新幹線で岡山に向かいましたが、車中でカオスの皆様にお会いしました。途中から乗車されたF先生の熱いお話を皆で聞きながら、岡山に到着です。

青空の夏日の暑さの中、岡山南眼科に到着しました。ジャメックスの細川社長、カオスの会会長の大橋眼科大橋勉先生のご挨拶で、今年の熱いカオスの会がスタートしました。

井上先生が「特別に新しいことはありませんが、いつものように、いつも行っている手術を行います」とご挨拶されましたが、ライブでいつものようにされるのは大変なことだと思いました。白内障手術5眼、涙道内視鏡を用いた涙管チューブ挿入術5眼を5班に分かれて見学させていただきましたが、本当に淡々と、丁寧に、流れるように手術をされていました。

手術顕微鏡カメラには、この日がお初という新しく購入されたマイクロキャスト HD カメラシステムが取り付けられ、ハイビジョンテレビモニターの映像は素晴らしい解像度でした。

白内障手術では、井上先生が術前の洗顔を自ら行い、ライブの音にシャカシャカと洗う音が聞こえるほどにしっかりと清拭されていて、感染症をおこさないというこだわりが伝わ

りました。白内障手術5眼は乱視用多焦点眼内レンズや乱視矯正用レンズ、通常の眼内レンズが使われていましたが、どの手術も丁寧に、確実に処理されて、考え抜かれ、完成された手術だからこそそのライブ手術だと思いました。

手術が1眼終わると、センチュリオンのカセットなどすべてのデイスポ器具を捨て、新しいものをお使いになっていました。新幹線の車中、話題になっていたことでしたが、すでに使い捨てを実行されているので驚きました。

内視鏡手術を使用した涙管チューブ挿入術も、慣れた手つきで涙道内を確実に映しだし、閉塞部の穿破、SGI (Sheath guided intubation) による涙管チューブ挿入術と、問題なく流れるように手術を終えられていました。上涙点から入れたPFカテーテル内に蛍光色素を注入して、下涙点から挿入した涙道内視鏡で総涙小管部の黄色のPFカテーテルを見つけ、涙道内視鏡を涙嚢内に進めていく手際よさに感動しました。すべての動作が考え抜かれた術式で、大変に勉強になりました。



手術の終了後、院内で症例検討会が行われました。私は「乱視用レンズの軸は多少ずれても仕方ないか」と思っていたのですが、井上先生は「術後もずれることがあるので、手術1時間後に乱視軸のずれをチェックし、ずれていればすぐ調整する」と説明されていました。手術直後から保護メガネで、点眼開始し、翌日から洗顔も仕事も許可しているとのこと、完成度の高い手術だからこそできることかと、感心しました。

夜の懇親会で、「白内障手術をしても、流涙症やドライアイがあると術後のQOVが悪く、それを治すために涙道手術に入った」とおっしゃられ、より良い結果、より良い満足度を得るためにと探求される姿勢がとても印象的でした。しかも気負わず淡々とされているところが、本当にカッコよかったです。

機会があったら、是非ライブ演奏会もお聞きしたいです。

8月1日(第2日目): 第2湯田眼科(神奈川県横浜市)湯田兼次先生、湯田健太郎先生
昨日の疲れを感じさせない元気で、朝早くロビーに集まり、新幹線で横浜に向かいました。菊名で下車して歩きましたが、この日も夏日で汗をかきかき中華料理店に到着。ゴマダレ味の冷やし中華がとてもおいしかったです。この時、迷われて後から到着した群馬の

高山先生と新田先生は大分歩かれたようで、同じ群馬県民として「お先にごめんなさい」。湯田眼科に到着すると、湯田兼次先生が笑顔で出迎えてくださいました。カオスの会員が全員入るにはちょっと手狭な感じでしたが、待合室としては十分なスペースで、しゃれた雰囲気の手術専用のクリニックでした。

フェムトセカンドレーザーVICTUS を使用した、白内障手術5症例を5班に分かれて見学させていただきました。フェムトセカンドレーザーVICTUS は、アメリカのボシュロムとドイツのTPV (Technolas Perfect Vision) の両社が、それぞれの白内障および屈折矯正の専門知識を生かして開発したレーザーで、去年はCatalys と LenSx 両社のレーザーを使った手術を見学しましたので、今回は違うレーザーでとのことでした。

フェムトセカンドレーザーVICTUS は非常に高価な機械だそうです。湯田先生の院内には、さらに高価な機械が所狭しと並び、驚きました。外来専用のきくな湯田眼科も国内で販売されている機器の多くが揃っているという話を聞きました。最新の医療を行うという姿勢、バイタリティーに感動です。

手術は1階で息子さんの湯田健太郎先生がフェムトセカンドレーザーで前嚢切開、角膜切開、水晶体の十字切開の照射を行い、2階で湯田兼次先生がフェイコで続きの手術をされました。見事な連携の手術に感心し、さらに私たちが分かりやすいようにとトリパンプルで前嚢を染めてくださるというサービスぶりに感謝でした。



手術後、バスで羽田エクセルホテル東急に向かいました。バスの中ではS先生に日本経済について教えていただきました。院長ともなると色々な知識が必要だと学び、帰宅後縁遠かった経済の本を読み始めましたよ。

羽田エクセルホテルで、症例検討会と懇親会が行われましたが、検討会では湯田兼次先生がスライドでレーザーの歴史、VICTUS の特色について講演をしてくださいました。本当に奥深いレーザーの見識に圧倒されました。湯田先生は、日本で初めてだから VICTUS を購入されたとも言われましたが、屈折矯正手術にも使えるという利点も考えて選択されたようです。

フェムトセカンドレーザーを使用した白内障手術式の利点は、前嚢切開を正確に瞳孔中央に、大きさも正確に、正円に作るができることとのことでした。角膜切開もでき、LRI

の位置、長さ、深さも正確で、乱視矯正レンズや多焦点眼内レンズと一緒に使用することで、白内障手術の屈折矯正手術への方向性が増すと考えられました。核の分割は色々選択できそうですが、今回は十字でした。安全域が後囊より1000 μ と他の機器の500 μ の設定より厚く、分割しにくいのが安全とのことでした。

フェムトセカンドレーザー使用の欠点は、白内障手術点数が低下している中のコストの問題です。VICTUSは屈折矯正手術も行えることから、より有利とはいえ、高価なことはなかなかハードルが高いです。乱視や調節の問題、より安全な手術式の飛躍のため、フェムトセカンドレーザーがどのような役割を担うのだろうか、今後が楽しみに思いました。残念ながら、経済的に当院に導入できる可能性は少ないなあと思いました。

検討会で「適応、価格はどうされているのですか？」の質問に、にこにこ「顔を見て決める」と答えられました。なかなかいい辛いのが真実に近いご回答に、湯田兼次先生の率直な、正直なお人柄が出ていて、素敵でした。

懇親会では笑顔の絶えない湯田兼次先生としっかりと父親を補佐するまじめな湯田健太郎先生の信頼関係に基づいた軽妙な会話が、見ていて楽しく、うらやましいひと時でした。心技ともにすばらしい湯田兼次先生に接することができ、本当に勉強になりました。

8月2日（第3日目）：大橋眼科（北海道札幌市）宮田信之先生（岡田眼科）、蘇春堂形成外科（札幌市形成外科）野平久仁彦先生

朝一番の羽田発札幌行にのり、ジャメックスさんが用意してくださったお弁当を持って、空路札幌に向かいました。きめ細かいお世話に感謝です。

札幌空港からタクシーで向かったのが、2日間一緒していた大橋先生の大橋眼科です。院長の留守中にカオスの会の準備をされて、スタッフの皆様は大変だったことでしょう。感謝です。

宮田先生による炭酸ガスレーザーを使用して行うMuller筋タッキング法による眼瞼下垂手術4例8眼を4班に分かれて、見学させていただきました。両眼で30分ほどの予定で、この短い時間内に8眼もの症例を確実に手術され、感動しました。レーザーのパワーを今回15wで行い、レーザーを走らせるスピードが速く、確実に、ほとんど無出血手術でした。周りの先生方がおっしゃるには、宮田先生の手術は、毎回手術術式が進歩されているとのことで、今回は日本の眼瞼下垂手術の最先端を見せていただきました。

完成された素晴らしい手術に魅せられて、遅ればせながら、当院も炭酸ガスレーザーを導入させていただきます。

また、ライブ手術の合間に、すぐ隣に建設中の巨大な新大橋眼科を見学させていただきました。工事中なのが残念でしたが、出来上がったなら素晴らしい病院となるでしょうと容易に想像できる建物で、新病院ツアーにもう一度札幌かなと思いました。

昼食は、札幌スープカレー専門店マジックスパイスというお店でした。S先生のリクエストだそうで、野菜たっぷりのスープカレーも激辛と普通の辛さがあり好きな方を食べまし

たが、今まで食べたことのない味のスープカレーがとてもおいしかったです。すると、偶然ですが、その店長さんが大阪で以前宮田先生に眼瞼下垂の手術をしてもらい経過良好で大変に喜んでいらっしゃるということで、ドラマのような奇遇にびっくりしました。全国をまたにかけて活躍されている宮田先生ならではのエピソードでした。



さて、午後は蘇春堂形成外科にお邪魔しました。サロンのような雰囲気のを待合室で、沢山の賞状やトロフィーが飾られ、仏像があり、眼科とはちょっと雰囲気の違った待合室でした。院長の野平先生による挙筋腱膜タッキング法による眼瞼下垂手術 2 例 4 眼を見学させていただきました。

手術前に患者さんに鏡を見てもらいながら、左右の重瞼線の出来具合、眼瞼の上がり具合を丹念に確認されていました。美容形成の下垂手術は、整容的にも100%の満足度を期待されるから、仕上がりも本人の納得できる形にと、こだわりぬくのだと教えられました。眼科医(私)の「出来上がりの瞼の形はそこそこで、兎に角あげて視野が広がり、ついでに形が良くなり、いろいろな主訴が治ればお得」という立場とは神経の使いようが違うようです。ミューラー筋のタッキング法とは違い、皮膚や眼輪筋の切除はほとんどせずに、切開線を眼瞼縁より遠く離して(13mm以内)とることにより重瞼の襞を多くとって余った皮膚を持ち上げる方法でした。個人の希望に合わせたオーダーメイドの切開の仕方は多くの経験値が必要だと考えられ、眼科医にはすぐにまねできない手術の気がしました。



その後、ホテルオークラ札幌に場所を移し、懇親会が開かれました。眼瞼下垂手術について眼科と形成外科のアプローチ、考え方の違いを聞く素晴らしい検討会になりました。北海道大学の形成外科の創設に尽くされた蘇春堂形成外科理事長の新富芳尚先生も参加してくださいました。

宮田先生は「初めて形成外科の先生に手術を見学してもらい、長野の松尾先生の理論からミューラー筋は触れないことを基本にしている形成外科の立場からのご意見を聞きたかった」とおっしゃいました。また、野平先生、新富先生は、宮田先生の出血も少なく、短時間で終わる華麗な手術を見学され、「これで治っているのであれば、ミューラー筋を触ることもいいのかもしれない」と感想を述べられました。しかし、一方、眼科で眼瞼下垂手術を受け、見た目が悪いと訴えられて形成外科を受診される患者さんが少なくないとのことでした。これから、眼科と形成外科がそれぞれ歩み寄り、どのように眼瞼下垂手術が進歩していくのか興味深かったです。

大橋先生が大橋眼科の名前がラベルに乗っているワインを提供してくださいました。大橋先生は以前からワインについても大変勉強されて精通されているとはお聞きしていましたが、ご自分の名前入りワインまでお出しになれるのがどのくらい大変なことか想像もできないので申し訳ありませんでしたが、フランス・ブルゴーニュ etc のラベルにもすっかり酔ってしまいました。



皆様のご挨拶を楽しく聞いているうちにお開きとなり、一本締めでカオスの会も無事終わりました。その後、ラウンジで二次会を行いました。話は尽きませんでした。

形成外科では医師同士がライブで手術を見せて、教えてくださるといことはほとんどないとのことでした。野平先生もライブをされたのは3回目とのこと、今回のライブ見学は本当に貴重な体験をさせていただきました。ジャメックス細川社長のご尽力に感謝です。一方、眼科では、手術の達人の先生から多くのことを学ばせて頂ける機会も多く、本当ありがたいことです。特に、カオスの会では、通常披露されないことにもおよび教えていただくことが多く、この会で学んだことを患者さんに還元しなくてはと切に思いました。

8月3日（第4日目）ジャメックスプチ観光ツアー

全ての日程が無事に終わり、残った7名の先生方とジャメックスのみなさんと札幌観光をしました。青空のもと大倉山ジャンプ競技場に行きましたところ、サマージャンプ大会が開催されるとのことで、展望台には行かれませんでした。思いがけずジャンプの予行を見ることができました。テレビで見るとは全く違う迫力でした。前半に飛んだ中学、高校生たちの姿にも感動しましたが、飛距離、フォームの美しさなど群を抜いた高梨沙羅さんのジャンプには本当に感動しました。

前日にプロ中のプロの下垂手術を見学して感動した後で、トップジャンパーのジャンプに感動し、トップはさすがであると、どの世界でも一流は違うとしみじみと思いました。



北海道庁旧本庁舎を見学後、札幌ビール園で冷えたビールと焼肉を思い切りいただきました。のど越し良好、最高でした。



今年も期待以上の4日間で、診療・手術のこと、人事の事、経営の事と本当に多くのことを教えていただき、何よりもトップサージャンの方の姿勢、考え方に感心しました。これからの1年も色々なことがあるでしょうが、来年のカオスの会に元気に出席できるように、努力・精進・前進していこうと思いました。皆様ありがとうございました。